

技術評価基準

大項目	中項目	記載事項の説明	評価基準（観点）	評価基準（段階評価の定義）	配点割合	小計	配点
1. 提案概要							
	1. 1. 基本方針（システム開発）	・本業務の目的（迅速化、労務削減、的確な情報共有）を達成するための基本方針、現状課題の分析、および構築上の留意事項と実効性のある代替案について記載すること	・本業務の趣旨とずれていないか ・奈良県特有の課題（山間部、既存機器の制約等）に対して、具体的かつ独自性のある解決策が示されているか ・コスト削減や品質向上に資する、仕様を踏まえた代替提案がなされているか	A: 求める水準以上の提案があり、極めて優れた内容である B: 求める水準以上の提案があり、有効な内容である C: 求める水準が満たされている D: 求める水準と一部異なり不足がある E: 記述なし又は不適切	6%	12%	72
	1. 2. 基本方針（システム運用保守）	・本業務の目的（迅速化、労務削減、的確な情報共有）を達成するための基本方針、現状課題の分析、および構築上の留意事項と実効性のある代替案について記載すること	・本業務の趣旨とずれていないか ・コスト削減や品質向上に資する、仕様を踏まえた代替提案がなされているか		6%		72
2. 基本要件・工程管理							
	2. 1. 実施体制・適切な人員配置	・全体統括、工程管理、セキュリティ設計等の役割分担およびバックアップ体制を明記すること	・各工程において、経験や資格を有する人員が適切に配置され、設計・レビュー・プロジェクトマネジメント等にも実質的に関与できる体制か	A: 求める水準以上の提案があり、極めて優れた内容である B: 求める水準以上の提案があり、有効な内容である C: 求める水準が満たされている D: 求める水準と一部異なり不足がある E: 記述なし又は不適切	6%		72
	2. 2. 運用保守体制	・運用保守業務を遂行する際の、体制計画について記載すること	・保守専用のヘルプデスク窓口が設置されているか ・迅速な対応が可能な体制やシステム改修の考え方等が記載されているか ・過去の同種システムにおいて、5年以上の長期保守継続実績がある専任担当者が含まれているか		6%	18%	72
	2. 3. 工程計画・業務フロー	・システムの導入に向けた全体スケジュールと迅速な意思決定を促す連絡・承認フローを提示すること	・各工程について仕様に沿った提案があり、業務をスムーズに遂行する連絡体制が示されているか ・確実な稼働に向けた効率化提案（並行開発、既存資産流用等）が技術的根拠に基づいているか ・代表メールや週次会議等で県との合意形成を停滞させない工夫があるか		6%		72
3. 機能要件への対応							
	3. 1. 統合監視・ダッシュボード	・GIS基盤での情報集約と、現場職員の迅速な状況把握を支援するためのUI/UXデザインプロセスを提示すること	・地図上に必要な情報が網羅され、基本的な監視・検索・操作が可能か ・最小限の画面遷移で済むUI設計、JIS安全色による重要アラートの強調、連動ズーム、デバイス（PC/スマホ）への最適化など、視認性に対する工夫があるか	A: 求める水準以上の提案があり、極めて優れた内容である B: 求める水準以上の提案があり、有効な内容である C: 求める水準が満たされている D: 求める水準と一部異なり不足がある E: 記述なし又は不適切	8%		96
	3. 2. 外部システム連携	・外部システム（河川情報システム等）との連携方法や外部システム事業者との円滑な調整方法について記載すること	・雨量、水位、警報、注意報などのデータを確実に取得する方式の提示 ・連携システムの運営事業者との円滑な調整提案、不整合防止策の提示		8%		96
	3. 3. 道路情報板連携	・IP化済み機器への制御、未対応機器の管理（機能マスク）、および実機を用いた連結試験における品質確保策を記載すること	・道路情報板（IP化済み）との連携試験の考え方及び工程が明確か ・未対応機器のIP化更新時に対応可能な拡張設計の思想が明確に示されているか		8%		96
	3. 4. 帳票機能の拡張性	・帳票機能の確実な開発方針とシステム導入後の様式変更に対応した柔軟な対処案を提示すること	・道路通行規制状況報告書等の各帳票を、指定された様式通りに精度高く出力できる設計アプローチが示されているか ・設計、製造工程において、県側の要望や様式変更が生じた際の柔軟な取り込みプロセス（再設計・テストの進め方）が具体的か ・レビュー機能やPDF出力時のレイアウト崩れ防止策など、品質管理上の工夫が示されているか ・ベンダーロックインの排除として、特定の有償帳票ミドルウェアに依存しすぎず、将来的な維持管理コストを抑制する工夫があるか ・帳票様式が変更された場合、プログラム改修を外注することなく、職員がブラウザ上のGUI（書式エディタ等）でレイアウトや変数タグを容易に編集できる仕組みが提案されているか ・過去の様式履歴の管理（バージョン管理）や、複数の拠点で共通のテンプレートを迅速に反映させるための運用案が示されているか		8%	40%	96
	3. 5. 情報発信・個人情報	・個人情報を保護するための設計思想を記載すること	・個人情報保護基準に適合した管理体制と、基本的なメール配信機能を備えているか ・個人情報のセキュリティ管理に関する資格または業務経験を有する人員による、多重承認ワークフロー、送信ドメイン認証の徹底、不要データの自動削除など、具体的な設計が示されているか		8%		96

大項目	中項目	記載事項の説明	評価基準（観点）	評価基準（段階評価の定義）	配点割合	小計	配点
4. 非機能要件への対応							
	4. 1. 可用性・災害復旧（DR）	・ 24時間365日の稼働が可能であり、基本データの遠隔地バックアップ計画を提示すること	・ ISMAP登録クラウドの使用を計画しているか ・ 遠隔地バックアップ等のDR対策が明確に記載されており、24時間365日の稼働の実現性があるか ・ 目標稼働率99.99%以上、RT04時間以内、RP024時間以内を達成する具体的な方式が示されているか ・ ISMAP登録クラウドの機能を活用した自動復旧（フェイルオーバー）を取り入れているか	A: 求める水準以上の提案があり、極めて優れた内容である B: 求める水準以上の提案があり、有効な内容である C: 求める水準が満たされている D: 求める水準と一部異なり不足がある E: 記述なし又は不適切	6%		72
	4. 2. 性能・拡張性	・ 災害時最大500名の同時アクセスに対する、システム構成上の負荷分散、サイジングの考え方を提示すること	・ 通常画面操作3秒以内を実現し、500名の同時アクセスを許容するか。 ・ オートスケール設計、または運用によるアクセス制限を含めた実効的提案があるか		4%		48
	4. 3. 運用・保守性・経済性	・ システムの安定稼働を維持するための日常的な監視、定期的なパッチ適用、および障害発生時の復旧目標時間（SLA）への考え方を記載すること	・ 運用マニュアル、障害対応マニュアル等の各成果物が、発注者が容易に理解・操作できる水準で計画されているか ・ 障害検知時に自動通知を行う機能など、監視を支援する仕組みを考えているか ・ SLA（サービスレベル合意）が提示されているか ・ SLA（サービスレベル合意）として、重大障害時の初期対応着手、RT0を明確に定義し、達成に資する技術的根拠を示しているか		4%		48
	4. 4. 移行性・システム環境	・ クラウド環境（ISMAP登録済み）の構築方針、本番稼働に向けた確実な移行・設定手順、および将来の保守引継ぎを見据えた標準形式の採用について記載すること	・ ISMAP登録済みクラウド（SaaS/IaaS/PaaS）を採用し、公共システムとして必要な信頼性・安全性を備えているか ・ XMLやGeoJSON等の標準データ形式を採用し、将来のシステム更新や他社への保守引継ぎを容易にする「ポータビリティ（移行性）」が確保されているか ・ クラウドのマネージドサービスを効果的に活用し、初期構築コストを抑えつつ、将来の負荷増大等に柔軟に対応できる拡張性の高い設計となっているか ・ 特定ベンダーの独自技術に依存しすぎない「ベンダーロックイン排除」の考え方に基づき、標準的な技術スタックが採用されているか		4%	30%	48
	4. 5. テスト・品質保証	・ 単体、結合、総合、受入テストの各工程が明確で、合否判定基準が策定されていること	・ 仕様に基づく各テスト工程が明確で、合否判定基準が策定されているか。 ・ 現地環境（山間部・トンネル等の電波不感地帯等）でのフィールドテストを工程に含め、実機検証計画が具体的に示されているか ・ 通信断絶時のオフライン動作テストを必須項目としているか		6%		72
	4. 6. ユーザビリティ（UI/UX）	・ 災害時等の高負荷・高ストレス環境下においても、職員が直感的に次の行動を判断し、一連の規制業務をミスなく完遂できる行動支援型UI/UX設計について提示すること	・ 事務所のパソコンでも、現場のスマホでも、文字やボタンが押しやすく配置されている想定としているか ・ 一つの地図を見るだけで、どこで何が起きているか一目で分かるか ・ 同時に、適切な量の情報が画面に表示されており、地図を拡大したりクリックしたりした時に、必要な詳細情報がスムーズに出てくるようになっていくか ・ 状況適応型UI：平常時、注意体制、警戒体制などの状況に応じて、必要なボタンやアラートのみを強調表示し、認知負荷を最小化する設計思想があるか。 ・ 業務ガイド機能：「規制情報の入力→承認→公開」という一連の流れをナビゲートし、操作の抜け漏れや入力ミスをシステム側で防止する方式が提示されているか。 ・ 夜間や降雨等の悪条件下における視認性を考慮した、確実な状況認識を支援する工夫があるか	6%		72	
合計					100%	100%	1200